八系

新出元亨釋書 六

Vault Collection

895.6
Sh92
1671
vol.6

L. Tom Perry Special Collections
Harold B. Lee Library
Brigham Young University

BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY
3 1197 23871 3033

帝國大學圖書館藏

吉野山往來名所卷六 目錄

佛谷　　高雲　　紀龍水
靜屋谷　　文瀧　　柴橋
屏風谷　　清水　　樋口の水
大の野亀　　歌小路　　妹背山
鮎　　小雪網　　杉谷毋
外多橋　　橋本文　　高瀧
象小の口　　神子水　　化生窟

帝国図書館蔵

ちこの書

覺帳

吉野拾遺巻六

○西のしら雲へ分て道に佛ら峯に至て一里の坂あり樵に蟬ら瀧とて三丈ばかり瀧あり其下に櫻尾乃茅屋ありそれより三町程過て奥院也

湯原

新古今

ちはやふる神乃御湯乃原に鳴て鳴ら山ら鶴

中京刑部

續古今

更行ら山ら陰ゆ月乃ゆ乃の秋の秋乃月

○山ゆに紀龍乃ゆ乃て名ゆあり又神ら

くすみ乃ゆ乃あり

佛峯

月のうちは佛ヶ峯の花ざかり
菩提樹の木陰ゆ佛ヶ峯の花
さきそめさうけや後の佛ヶ峯
うぐひすや佛ヶ峯のつまごさ
ゆやうふ佛ヶ峯の花のこゑ

友笠

後花ひ後者もそ物ゆ山桜
かつと川やひらうへてもくるる
ゆにうけや二人静の名つと川
ちうしの友ねてさい初花
汗ゆい友ゆ乃うえのかしら

和州今井寄計　宗頭
月柳本姉尾氏　紋水
月原田氏　令行
摂州平野住　家沢
和州上市佐多氏　能宗

浜荻廚　春雨
和州長本住　行好
月城鳥氏　正重
大坂　如貞
摂州尼住　宗寿

後拾遺
夕瀧乃瀧津の上たつをとみえつゝ吉野の山の雪や残れる
侍従正家

○吉野川瀧津岩ねに花ちれは花の井せきに波そこゆる
瀧乃名に屏風岩といふあり又人丸岩とて
はしる瀧乃そこへとひいりてはるかに米橋よ
りひとしき清この瀧又日晩猿といふ名あり
くらゐに梅口の瀧ともあり

新勅撰
吉野川清き河内の山風にたえぬ瀧のよはなさえつゝ
光明峯寺

大納言具房

日くらし野行るあそこひとあり細く煙り行と思へ
大の野原又歌小野おとゝ名ありと思へ
ゝ
ゝ

新古今　　捕仁親王

みしの大の野原の古柳けふとみねまめ行に

新千載　　僧正行尊

うら波や大川野べの風をひろみなめてゝ名にひろ

新続古今　　源範政

一日みし野の小萩に苅葉はつゝ

ゝ

綱代と云ふ所にたちやまと川　多武峯西院　鬼子

花筵あり　大坂鴻氏　子筒

紀ぐのみや井せきの水の系

静屋敷　同井

蝶の舞ふ所にみちの舞ふ

家流いうに舞うあり風流

風流やしたに同く井戸乃同　和州宇多笠川氏　辰女　同今井今西氏　宗獨女　大坂河内氏　本茂

家業もち三町もち色文流そなわの流川

あり畑のうむいたあり畑にいちかうさ

ちそその系氣たにて筆に色中くれなひ

うさあり乙の流あり流のあいてさ系獨あり

遊吉野川　紀男人

萬丈崇巖削成秀　千尋素濤逆折流
欲訪鍾池越潭跡　留連美稻逢槎洲

同　藤原萬里

友非干祿友　賓是飡霞賓　從歌臨水智
長嘯樂山仁　梁前招吟古　峽上簧聲新
琴樽猶未遊　明月照河濱

法皇御製

後撰

[illegible]

光明峯寺

和行

文潮

みかうこの清月亦やしさうしてとさて落る文潮
文潮し祈さひてこてこてら新
文潮の波の彼や大うづ
文潮のやの字のけこ紅うら

紫檀

紫檀や月色ぬりてとこぶけ

屏風岩

うつ絵とみや屏風の岩ド

岩苑

岩とびの苑もりこ行のしの門

日暮路

和別今井今西氏　宗獨
同今井大門氏　宗勝
紫野山田住　伊氏
和別下市秋津氏　守由
和別今井上田氏　長家
市廣橋氏　政利
塙之住　吉章

和哥

いかにして此日暮れぬ遊ひに人の心や桜のゆけり　和州今井今西氏 宗獨

花や一首硯にむかひ日くらし哉　和州今井細井氏 次重

花もこそれし花もこそたくとかくも月　日多武峯福元氏 宗貫

名にしおはゞ桜さして日くらし哉　日今井森氏 顕兵

花のかけ花ともれいてそ見たる哉　紀州橋本住 一空

花よやまぬめりしあり世をみる哉　河州世内本氏 友好

清水の氷

この花は清く色こきよき清水の氷　和州越部住 正重

樋口の氷

名におふしてや樋口くりしのかけて流れ　日八木上田氏 勝重

樋口にてみなかくるとめいの氷蓼　日高取沢氏 寛忠

大の姉色

芳郷の糸や大川のくゝ

秋小野

和別林氏　松軒

土原郡山中ニ　和沢

熟分山田古跡　伊人

紅の色のいろいろに小姉小町ハ

歌うゝらのその蔭うら

○文流ゝ十町ゝゝ川下に妹背山あり妹山

背山ゝゝ川を隔ゝゝ山あり

和藤原大政遊吉野川ニ顔ヲ上　大伴首

地是幽居宅一山惟帝者仁　溪渡浸石浪

雑沓應琴鱗　霊懷對林野　陶性在風煙

欲知歓宴曲　滿酌自忘塵

後深草

あらそふ源の宰相の妹婿の山の中に流れ侍

大納言門院御歌

慈鎮

後白河

我涙ながれ川のうきぬ妹せの山の中にあらなに

冬嗣卿

日

月はあはれ関路をこえいもの門わたるをしらぬ

行家

後鳥羽院

あづまにてうきをもかこつそらにあるいもせの中の橋

友信卿母

ながれ川をうきをかけて橋いもせの山の尾をそまし

ひの
いしの

ひあてうふて小雪綱と為い紅とうるう
鶴綱毋なとあり

大坂文氏　友信

梅晴山

梅の
もゝしくいとのいとせ井に落ちれ宮ちこりとえん

梅守　同　宗福

不ろ鶯のかまうすをみくいもの山とりうこて
自然首ちや梅ちすいもの山梅
梅ホし連理の枝ういりせ山

京　貞室

和刀高取林氏
日高取福馮氏　忠要
日高田宮崎氏　回東軒
日公木上田氏　正流
勝重

芙風と花い離が〻いりせ山

いりもしのやとの木ゆや苔の緑
くさちあふや妹背のしの蝶つひ
いりもしや袖とは爰と苔ちる
月苔や陰陽和合いりもしの
いりもしーくるや月の舟出遠

鮎

ささのんの門渡とりる小鮎
奥の木よのりるや鮎のとる網
ぶりしやなもりつしく 桜魚
苔ちりてとりの鮎やすひ網

小鷺網

小ぢるあくに分し染あいの桜ゆ

和列今井綱師 信重
同多武峯門頼氏 古備
同今井任 利直
同久平野氏 良弘
同下田任 葦葉

博池鳥氏 成之
多武峯[illegible] 鳴
和列定家田宮氏 仙野
同土佐加茂氏 親則
同八幡松村 [illegible]

鶴飼舟　吉野山義之　玄榮

鶴いとゝ数ゝの鶴飼舟

交龍ち桜木乃交へゆく道に和歌の鶴

あるは桜木の交のゝさゝに弓鶴あり

従賀茂吉野宮應詔　大伴王

山幽仁趣遠　川淨智懷深　欲訪神仙迹

追従吉野尋

遊吉野宮　中臣人足

惟山且惟水　能智亦能仁　萬代無埃所

一朝逢招民　風波轉入曲　魚鳥共成倫

此地即方丈　誰説桃源賓

赤人

[illegible]川の瀧乃うへにあされる咲てちる

大納言雅章

瀧の糸のくりかへしてちれどいさとる人桜木の実

桜木乃実のまへとゝろとゝ象小川とゝ

続古今　権大納言憲賓

みるあれ佛まそやうとゝ象の小川の月の月

玉葉集　中納言家持

ひとみ象小川と入らしれていく　[illegible]

同かり象山とてゐ山あり　男孫將忠

金葉集

みうらの象山陰にたる松く秋風にそよぐなり　光蓮法師

小雪降のこゑ高くなりみやまの雲ぞ時雨ぬる　長暢

紫秋の象山松の木ぬらしつゝにみやまの月

○すゝ行右乃うゝに神ゝのゝとゝふあゝ

いゝるゝ人ゝ口よゝゝのゝうゝゆゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

此地即方丈　誰説桃源賓

赤人

蜘蛛の糸ながき川の流乃うへにあさぢの結て咲てちるらん

大納言雅章

瀧の糸のながらへてちりぬるきとる人柳木の実

柳木乃実のまへとるとて象小川とゝかり

拾大納言憲賓

續古今

みるあさぢ結まてやうつる象の小川の水の月

中納言家持

玉葉集

ひとみ象小川と入今こそ花ぞ咲ぬ

同ふり象山そてゐ山あり　　男孫好忠

金葉集

みうらの象山陰にたる松く秋風にそよぐなり

光蓮法師

小男鹿のこゑ聞こゆるみやまぢ

長明

幾秋か象山松の木ぬれつたにかかる月

すゝ行右乃うゑて祈ゐのゐとゝあ

いろるへ口よりそのうゆ

らうゝ

橘本の夫

外象橋

秋しすゝ月とゝさの橋柴
雪の細道ゝさの橋や梅つゝ

梅木文

梅木のゝけるゝ夏ゝ聚
梅木の文いぶゝん風乃外
梅木の文のゝゝや花蓮
梅木の文風花にあゝ花ゝ
梅木の雪外ゝ手ゝ花ゝ

象小川

花の波やゝゝにゝゝ小川紙

象山

京

長谷本願院　長徳

常州真壁二宮氏　吉下

和州今井今西氏　吉武

同高取宮川氏　吉沢

同上市井氏　重之

大坂中林氏　正之

亘久

仙洞

きよみがせさゝ山あらいてはる雨ふるかの山ぶきの色

和歌所寄合民部卿　正長

鶯こゑやさそふらん春の花の香

日野重信　光性院

高瀧

たゝりくる高瀧や雲のうへにあるの波

吉野山方代氏　政清

神子水

ゆるまもる湯ぞ立つ神子のみの下

和歌所寄合内氏　宗勝

とのゝ口氏水鶯やこゝく神子水

寄列山田中ノ氏

神子のみにうつる月や挑弓

和歌所寄合氏

言けのすゝや堅田の神子水

日野今井森氏　長方

神子水ゝ所ゝ所ゝ所ゝ乃岩

顕真

こすきのうちに鬼女あり　いうにはく
らんとておそうやとの面ひとり女音ていてく
永と鬼子二人うつさるしろまやすきまま
所大殿の沖あらしにて出若患とたちけ
ものとひとりの服のことひとりこに眼八月
のうちに文は狸丹塗のうしの沙のやうあるさだ
りて母の乳ふうしてひつき居らその時子
秘文とうへ面へ鬼子はそのまま同義よ
こつうと調子丸よおはせて松うけよすてこせ
まふその松ととに鬼の松とあり後女

伊勢太神宮の御松とあらはす

化生洞

みうらやまと化生うらの宮

松の屋つらら化生の岩屋代

松うんの一祈ん化生の岩屋

ありやまやま化生の洞の宮女

蓋こうら猫や化生のうら宿

児松

蓋の代と名にたまや児の松

女年の主のことやや児の松

こうら岩ハさけうらあるし児の松

こしらの立やたてこうひにうの松

和列高田在方氏
同今井大内氏 仁世子
吉野山麓言田氏 宗勝
紀列粉川児玉氏 徳源
江戸板田氏 遠方
清沢

吉野万代氏 政清
勢列川俣松井氏 信之
多武峯西院 彩子
吉野山

一

まはとりあへとゝりや見へたり
一句山
和州柏原住　愚雲

くもりすな花のさかり也児の松
同多武峯　古桶

草花多して小人の徳や児の松
同今井大内氏　宗勝

椙つゞくにそふるや児の松ぶくり
勢州山田中田氏　ム巳

そめかぬる松と時雨や児の松
紀州橋本住　定吉

二葉より雷いてゞくや児の松
大坂中林氏　宜久

薄雪ハうあか化粧も児の松
和州今井今西氏　宗獨

相右

千年の行末遠くみとり児の松にちとせあるかな

高山樗規の利生をあらはしたまふ
そもそもかの吾妻の行の始めしも
ひの後系のたまもせと語りつたへ
中ごろ九重のみかど上人獻乃
旅のやさしきをかへ光れ堂をうけ
夜更て法華のひいきをかし天武天皇
の後ハ後醍醐後村上の三帝出世
ら遊りして行りまりしなむ

くハその風流のこゝろ[illegible]
人もなりと思しるといふ[illegible]
なるべしなりてひ[illegible]
こめらしなひりこゝろの[illegible]
[illegible]の人々とて名高くとゝ[illegible]
も蕉の伝ふる山ゐ[illegible]
みのこゝろをハ[illegible]
せそやけれ[illegible]

こゝは新宮の山ちかい山よりいりくい
うもゆへ住る所ゝ所ゝ吉義
と同じ事なれ共人ゝ一ぢ
ことゞまりて出一ぢよりぬとて
いりと入ゝ住ゆふ山なる所ゝ
しかしまた月日所ゝ住ゆる
後月ゝ人捕ひろへて生ながら獄
の中ゝ出よもるの人ゝ一ぢ

名付て御山さくらのこゝろとなるべし
こゝ大和くにの雪うゆひ歌しくに
の雪ハ越の白根よりとゝたるとゝの雪
人乃涙ゝもひしくゝと橋ハ行くハの
こと久しくゝ和なるハ橋ゝと橋ゝ若
木の雪ゝるゝハくゝゝて橋ゝ橋ハな
ゝ雪れハ山し涙ゝ出ゝれとさゝゝ橋魂の
神木なれて金ゝの雪ゝかハゝなの木の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛文十一年夜文看田　吉野山人謹看菴周可

吉野屋藤兵衛開板